

# お釈迦さまの十大弟子 らごらそんじゃ 羅睺羅尊者

平成24年7月第2週放送

お釈迦さまの十人のすぐ優れた弟子の一人であるらごらそんじゃ羅睺羅尊者は、お釈迦さまの実の息子でもあります。なぜ、実の息子であるらごら羅睺羅尊者がお釈迦さまの十大弟子に入っているのでしょうか。

らごら羅睺羅尊者は「みつぎょうだいいち密行第一」といわれました。

「みつぎょう密行」とは、いまし戒めをよく守って生活をするということです。らごら羅睺羅尊者は、何か特殊な能力を持っていたり、特殊な行いをした訳ではなく、戒めを誰よりもよく守った生活をしていたので「みつぎょうだいいち密行第一」と呼ばれたのです。

しかし、そこまでいまし戒めを守り続けるには、「いつも自分で自分を追い込み、不自由でかなり堅苦しい生活をし続けなければならないのではないか」と普通は思うでしょう。

果たしてらごら羅睺羅尊者は、そんなに苦しい生活を送ったのでしょうか。

お釈迦さまの教えというのは、苦しみから離れた生活をし続けていくということです。その教えを求める弟子が、自ら苦しみの中に身を置くのでしょうか、そうではないでしょう。

では、戒めを守るとはということなのでしょうか。

戒めを守り続ける生活を送るのは、悟りを得た仏様の生き方です。その戒めを守っている時は仏様と同じなのです。坐禅の姿が仏様の姿であることと同じです。戒めを守っている時が仏様の生き方をしている時なのです。

逆に、戒めを破っている時は、仏様の生き方から離れている時です。一つの戒めを破るという事は、別の戒めも守っていない場合が多いのです。

らごら羅睺羅尊者が、その戒めを細かくよく守っていたのは、お釈迦さまの教えをよく理解し、仏様の生き方をしていたからなのです。

仏様の生き方が戒めを破らせなかった。つまり、戒めを守るというよりも戒めを破るような生き方をする必要が無かったのです。

ですから、らごら羅睺羅尊者は、「密行第一」の、お釈迦さまの十大弟子の一人といわれるのです。

— 終 —